（別紙様式=小学校用）

都道府県番号	２２
都道府県名	静岡県

【　①■　②■　③■　】

Ⅰ　学校名と及び規模

学校名	藤枝市立青島東小学校								
学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	計	教員数
学級数	4	4	4	3	3	3	0	２１	３１
児童数	１４４	１２４	１２３	１１２	１０３	１０２	0	７０８	

Ⅱ　研究の概要

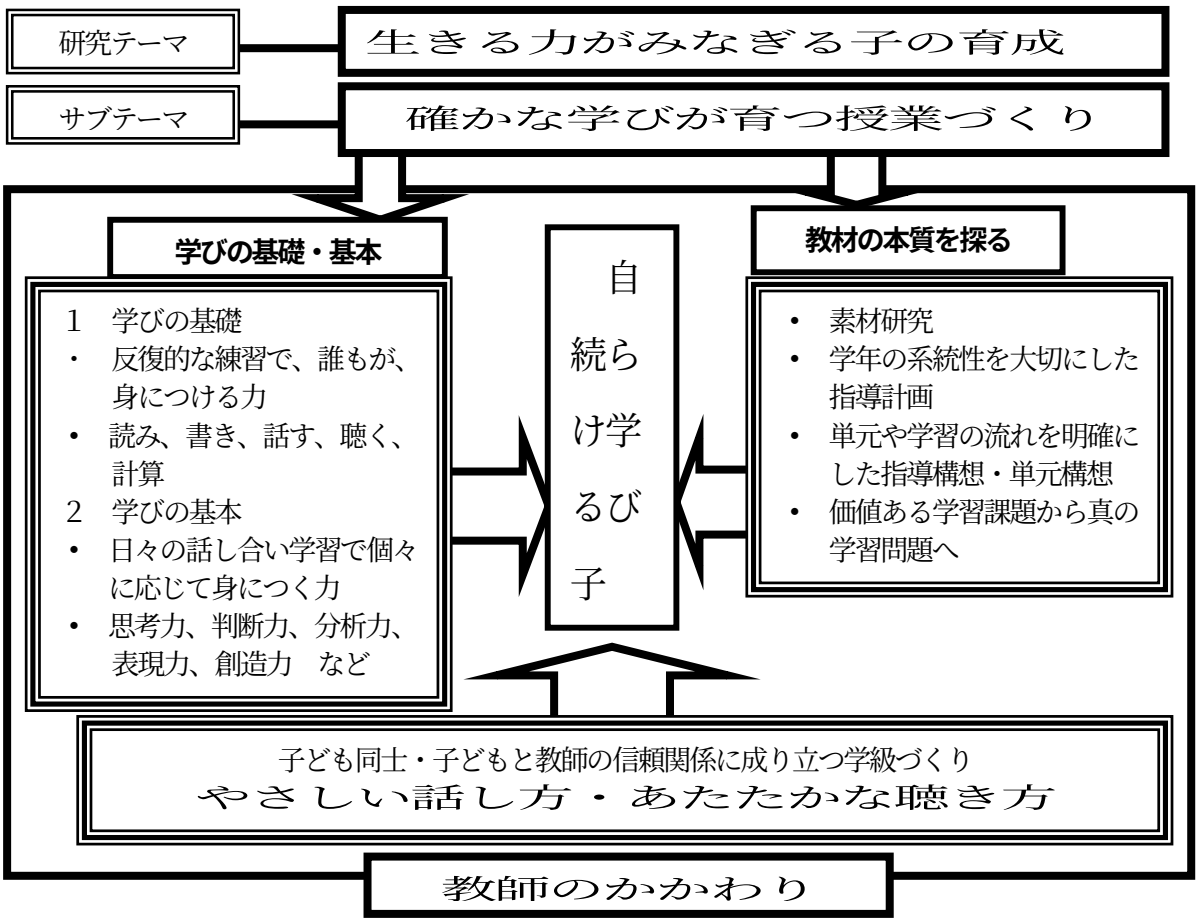
（1）　研究主題

生きる力がみなぎるこの育成　　―確かな学びが育つ授業づくり―

（2）　研究主題の設定の趣旨

・　全学年、全教科で、実施する。

年次ごとの計画　　平成１５年度研究構想



平成１６年度の研究方向性

・　研究テーマ、研究方法、研究内容ともに今年度の取り組みを継承する。
・　新たな課題として、本時の授業や単元全体を見通しての「評価」の在り方、または、評価カードの活用方法など取り組んでいきたい。

Ⅲ　研究の概要

（1）　研究推進体制の工夫

分担	・学力向上フロンティア報告，研修全般　・研修書類保存　・授業実践資料収集　・外部交渉 ・写真・ビデオ等　・力試しテスト　・授業分析　・ホームページ作成　・研究授業実践記録収
研究体制	• 各学年で、年間１回ずつ、年間６回研究授業を行う。研究授業は全員参観とする。 • 低、中、高学年で１回ずつ大研を設定し、全員で事後研を行う。 • 学年研の場合は低、中、高学年部で事後研を実施する。 ・ 研究授業以外でも授業公開を積極的に取り組み、研修の日常化を図る。 ・ 大研の時には講師（横浜国立大学教授　高木展朗先生）を招き、指導をうけた。

（２）　研究の実際

・生きる力に結びつく、『確かな学び』について『学びの基礎・学びの基本』に分けて考察してきた。

『学びの基礎』における学力	『学びの基本』における学力
＜学びの基礎Ａ＞ ・読む力、書く力、計算する力 ＜学びの基礎Ｂ＞ ・上記以外３つの力を押さえた上で、それ以外で指導要領に示されている確実に定着させなければならない技能や知識、言語、処理する力 指導要領の目標領域における 【知識・理解・表現・処理・言語】など	やさしい話し方・あたたかな聴き方を通して、教師と子ども、子ども同士の信頼関係が成り立ったクラスづくりを基に、 • 学問としての概念の拡張を図る力 • 自ら問題を進んで解決する力 • 思いや考えを表現する力 • 自己の考えを高めていこうとする学習意欲 指導要領の目標領域における 【関心・意欲・態度・考え方・思考】など

（３）　研究の成果と課題

・普段の授業で勝負できる教師集団、学級づくり、授業構想が本校の財産であり、『あたたかな聴き方・やさしい話し方』は、全てのクラスに十分に浸透し、子ども達が自然体の中でつぶやきや反応し、相談し、確認の言葉などを交えながら、自分たちで授業を創ろうとする意識が高まった。

・４月当初に立てた『学びの基礎と基本の仮説』を吟味し、学習指導要領を基にした『新たな仮説』を立てることができた。

・『素材研究』を通して、教材の本質に迫り子どもの柔軟な反応に対応できる授業づくりを試みることができた。

・毎月の力試しテスト、朝のモジュール時間の活用、少人数指導などを通して、繰り返し指導が必要となる計算力・言語力（学びの基礎）は、確実に高まってきている。（８０点以上の児童が９０％到達）

課題

・子どもたちの授業での表れを、どのように評価するか。『振り返りカード』などの導入が必要。

・６年間で子どもたちに確実につけたい力を捉え、本校なりの『東小カリキュラム』をどのように取り組んでいくか。（６年間指導計画）

・少人数指導、ＴＴ指導の在り方の研究も全体研修の中で取り上げていきたい。

(4)　研究成果の普及の方策

・公開授業、大研を年間４回実施した（５、６、１０、１１月に実施した）
・ホームページを７月に作成、実践や研究授業日程を知らせた。
・実践記録集を夏休みと１月の年２回作成した。

【新規校・継続校】　　１５年度新規校
【学校規模】　　１９～２４学級
【指導体制】　　少人数指導、ＴＴ指導、一部教科担任制、その他
【研究教科】　　国語　　社会　　算数　　理科　　を中心に
【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】　　有り
ホームページ　　http://web.thn.jp./aohigashisho/　　E-mail　aohigashisho-o@thn.ne.jp

【特色ある取組例としての紹介したいポイント】
○　研修の日常化を図るため、地域に対し授業公開を積極的に行っている。
○　『確かな学び』について『学びの基礎・学びの基本』に分けて考察し、授業構想を大切にしている。
○　教材の本質に迫り、教師一人一人の授業の質が高まっている。